

MEMBER

“イワシ”のミミ [ヴォーカル/フルード]
Chant/flûtes : Mimi la Sardine (Marie Perrin)

“吊りヒモ”フローレン [アコーディオン]
Accordéon : Flo la Bretelle (Florent Sepchat)

“バスク”のペドロ [マヌーシュギター]
Guitare manouche : Pedro le Basque (Pierre Mager-Maury)

“電球”ダヴィデ [コントラバス]
Contrebasse : David l'Ampoule (David Forget)

“税金”のジャンジャン [ドラム]
Jase (batterie ancienne) : Jean-Jean la Taxe (Jean-François Caire)

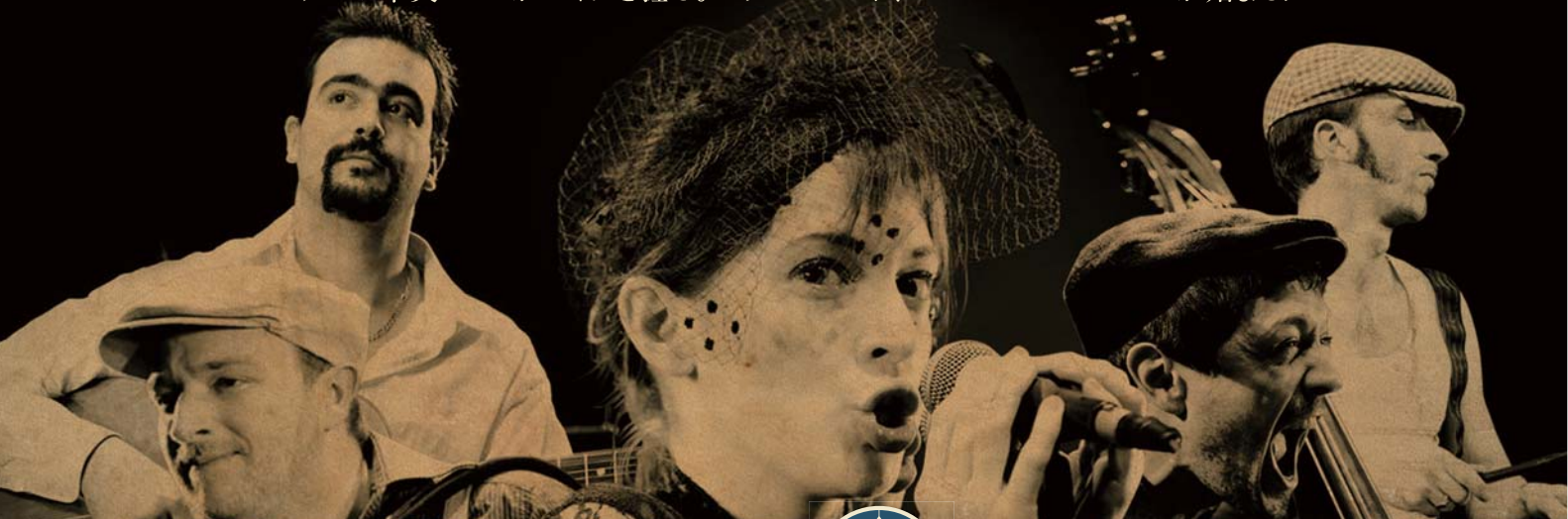


フレンチ・カフェミュージック

パリの街角 ル・バルレーシェ ドゥ・ラ・ソグレンュー

Le Balluche de La Saugrenue

ここは半世紀前のパリの下町、街角にある“バル”。くゆる紫煙、注がれる酒、談笑する男女。雑踏のなか、5人のミュージシャンがステージに現れる。哀愁をそそるアコーディオンが口火を切り、ステージ中央のミミがマイクを握る。パリーのバンド、ル・バルレーシェのショーが始まる!



2010 **10.22** [金] 7:00PM開演 (6:30PM開場)
A 4,000円 B 3,000円(税込/全席指定)

兵庫県立芸術文化センター 阪急 中ホール

〒663-8204 兵庫県西宮市高松町2-22 阪急西宮北口駅南改札ロスグ/JR西宮駅より徒歩15分(阪急バス7分)



『フレンチ蚤の市』オープン

フランスらしさを代表する風物詩 蚤の市。雑貨や、食器、かわいい壁掛け、ポストカードなど。掘り出し物はあなた次第?!

阪急中ホール
ロビー

ロビー開場
6:00PM~

会場へのご入場は
6:30PM~になります。

一般発売

6/20

●芸術文化センターチケットオフィス 0798-68-0255 10:00AM~5:00PM 月曜休み ※祝日の場合翌日

インターネット予約 <http://www.gcenter-hyogo.jp> ※窓口での販売(残席ある場合)は6月22日(火)より

●チケットぴあ 0570-02-9999 [Pコード: 106-659] ●e+(イープラス) <http://eplus.jp> (パソコン&携帯電話)

●ローソンチケット 0570-000-407 (オペレーター対応) 0570-084-005 [Lコード: 52441]

芸術文化センター会員電話予約受付開始 6月19日

お問合せ/芸術文化センターチケットオフィス 0798-68-0255

※未就学児の入場はご遠慮ください。やむを得ない事情により、出演者等が変更となる場合があります。あらかじめご了承ください。

主催:兵庫県、兵庫県立芸術文化センター



兵庫県立
芸術文化センター

平成22年度文化庁芸術拠点形成事業



文化力
POWER OF
CULTURE

関西から

パリの街角 ル・バルレーシェ

Le Balluché de La Gauguenne

半世紀前のパリの下町にある、カフェやキャバレー、バルなどで親しまれた、すてきなフレンチ・カフェミュージック。気軽に踊れるダンス音楽としても愛され、当時はたくさんのダンスホールが流行りました。

気だるい哀愁を帯びたアコーディオンの音色、小気味よいギターのカッティング、そして、紫煙の中に聞こえてくる魅惑のシャンソン。まるでタイムスリップするかのごとく、1930～50年代のファッションとスタイルが、しゃれてて粋なグループ“ル・バルレーシェ・ドウ・ラ・ソーグルニュー”。ノスタルジックに恋をして、老いも若きも踊りに行こう！

パリの下町、ミュージック・ホールへようこそ！



ル・バルレーシェ誕生秘話 ～彼らは自らをこう紹介している～

1929年、パリに5人の ミュージシャンがいた。

パリを中心に多くの若者の心をとらえていたミュゼット・ダンス・バンド。パリでは彼らのバンド名が合言葉のようにささやかれていた。「ル・バルレーシェ・ドウ・ラ・ソーグルニュー」と。

順調に思えた音楽活動だったが、1929年7月、突然の悲劇によってその道程は途絶えてしまう。彼らの活躍に嫉妬した男がパリ20区メニルモンタンのバルにいた彼らにクロロホルムで麻酔をかけ、地下室に冷凍してしまったのだ。なんと目を覚ましたのは、男が心臓発作でこの世を去った1935年8月から、さらに70年の歳月を重ねた2005年5月10日のことだった。

復活を果たした彼らがができる唯一のこと、それはバル・ミュゼットで娘たちを踊らせることだった。ギターを持ち、ベースを抱え、アコーディオンの息吹に耳を傾け、ドラムのスティックを握りしめる。そして今、ホールに1929年の歌声が響き渡るのだ。

ル・バルレーシェ ドウ・ラ・ソーグルニュー

イタリア人のアコーディオンプレイヤーとキャバレーで演奏していたオーヴェルニュのミュージシャンとの出会いから、ミュゼットのスタイルが誕生し、1930年から1950年の間にパリで進化していきました。「ル・バルレーシェ・ドウ・ラ・ソーグルニュー」は、そんな懐かしいフランスの黄金時代を体感させてくれるバンドです。

01. フレンチ・ミュージック

フランス音楽はさまざまな

国の影響を受け独自の発展を遂げてきました。スペインのダンス曲、東欧のポルカ、アメリカン(ルンバ、チャチャチャ、ストンプ)などが絶妙にミックスされたもの、特にジブシージャズなどの影響でエキゾチックな香りを持ったものなどが多く、「フレンチ・ミュージック」という一大ジャンルを築き上げました。しかし近年フランスでは日本の民謡と同じように、こうした古いスタイルのミュゼットやシャンソンなどを若いミュージシャンが演奏することはほとんどありませんでした。

02. リバイバル

このような状況で

ファッションや音楽のスタイルを現代に再現することで一躍脚光を浴びたのが、ル・バルレーシェです。彼らはこれらの音楽を深く理解し、ワルツ、ポピュラーワルツ、スピニング・トップスやスウィングなど、独自のエッセンスを入れたユニークなミュゼット・グループです。特にヴォーカルのミミは、時代を超越した空気を漂わせ、パリのユーモアを交えたレパトリーを歌います。

03. 歌い、踊り、楽しむ

ル・バルレーシェの演奏するワルツ

やディスコのスウィングやパソ・バンクは思わず観客が踊ってしまうタイプの音楽です。パリの空気をそのままに來日するこのユニークなミュゼット・グループ、ぜひ誰かをダンスに誘い、踊るような気持ちで、ショーを楽しみに来てください。

バル・ミュゼットとは ～パリの大衆音楽～



てしまいそうな、3拍子のリズムと、自在に動きまわるアコーディオンのメロディー。古き良きパリを彷彿とさせる音楽、つまり、これがミュゼット音楽です。19世紀からオーベルニュ人やイタリア人、ジブシー達などの移民達の交流によって発展したミュゼット音楽は、酒場やカフェでダンスミュージックとして庶民に愛されてきた下町情緒あふれる音楽です。



<http://www.gcenter-hyogo.jp>

兵庫県立芸術文化センター
Hyogo Performing Arts Center

先行予約会員募集中!

詳しくは、<http://www.gcenter-hyogo.jp>

便利なアクセス!! (阪急電車特急乗車の場合)

大阪・梅田からも神戸・三宮からもホールまで15分

- ◎ 阪急 西宮北口駅 南改札口 スグ(連絡デッキで直結)
- ◎ JR 西宮駅より徒歩15分(阪急バス7分)
- ※ご来場は、電車・バスなどの公共交通機関をご利用ください。

アクセス

